

令和5年12月22日（金曜日）

高校生と姫路市議会との座談会（総務）

議会会議室

出席議員

三和 衛、妻鹿幸二、有馬剛朗、宮下和也、
常盤真功、石堂大輔、竹中由佳、坂本 学、
谷川真由美

出席高校生

賢明女子学院高等学校 6人、
東洋大学附属姫路高等学校 4人

開会

13時55分

委員長挨拶

13時55分

出席者紹介

13時57分

意見交換

14時00分

○ 個別テーマ

・SDGsの促進

「誰でも実践できる『SDGs』の取組とは？」

（委員長）

まずは、数あるテーマの中からSDGsの促進を選んだ理由を聞きたい。

（高校生）

本校には、「Be Leaders!」というSDGsに対して取り組んでいくことを目的とした組織があり、学校全体の意識が強いため何か提案できたという思いで選んだ。

（高校生）

SDGsに興味があり、今後の社会を見据えていく中で大切なことだと思ったので参加した。

（委員長）

SDGs17の目標の中で、どの分野に1番興味があるのか聞きたい。

（高校生）

1番注目しているのは、「5 ジェンダー平等を実現しよう」である。私が女子校で5年間過ごして感じるのは、世の中では、男女の役割意識が未だに強いが、男女関係なく、1人の人間として見るという考え方が大事だと思うからである。

（高校生）

私も「5 ジェンダー平等を実現しよう」に1番興味がある。漫画やアニメが好きなのだが、その中では男性同士、女性同士の恋愛などがあり、現実の世界でも

もっとあればいいなと思うからである。

（高校生）

「11 住み続けられるまちづくり」に関心がある。高齢者が住みやすいバリアフリーなどを増やしていきたいからである。

（高校生）

「3 すべての人に健康と福祉を」に関心がある。私たちが健康に育っている環境は、当たり前ではなく、生まれた国によって違うからである。

（高校生）

「1 貧困をなくそう」に関心がある。こども食堂のボランティアに参加していて、子どもたちがうれしそうにご飯を食べている顔を見ると温かい気持ちになるからである。

（高校生）

「4 質の高い教育をみんなに」に関心がある。私たちは当たり前前に学校で勉強しているが、世界ではこれが当たり前ではないからである。

（高校生）

「16 平和と公正をすべての人に」に興味がある。国民の意見を取り入れる手段の一つとして投票があると思うが、投票率が低い現状では、国民の意見を反映できていないと思うからである。

（高校生）

「4 質の高い教育をみんなに」に関心がある。私には、小学校の教師になりたいという夢があり、教育の質がもっと高くなれば、未来を担う子どもたちのためになると思うからである。

（高校生）

「3 すべての人に健康と福祉を」に興味がある。誰にでも起こり得る病気に対して、福祉が行き届かないところでは、救える命も救えないからである。

（高校生）

「4 質の高い教育をみんなに」に興味がある。私は、ニュージーランドからのホームステイの受入れをしていて、一緒に高校の授業を受けている。数学の授業がとても簡単だと言うので、いつ習ったのか尋ねると小学4年生と答えた。レベルの差や遅れがあると知り、もっと質の高い教育が必要だと感じたからである。

（委員長）

みなさん素晴らしい考えだと思う。

私たち議会では、SDGs といえば、サステナブルの観点から環境問題がピックアップされることが多いが、誰も環境問題には触れなかった。SDGs の本質については、学生の皆さんのほうがよくご存知だと思った。

学生の皆さんの考えを受けて議員から意見を聞いてみることにしたい。

(議員)

2校とも生徒会で一緒に活動しているメンバーなのか。

(高校生)

そうである。

(議員)

SDGs は皆さんが小学生の頃に国連で採択されたので、我々の世代よりも身近に感じていると思うが、SDGs とは皆さんにとってどのような存在なのか。

(高校生)

学校全体で取り組んでいるため、ペットボトルの分別やラベルを剥がすなど、日々の生活に定着している。

(高校生)

大層なもののように取り上げられるが、私にとっては当たり前のことが多く、意識することのほうが少ない。

(高校生)

本校の「Be Leaders!」というSDGs に特化したチームの中にベルマーク班やユニクロ班などたくさんのグループがある。私はユニクロ班に所属していて、着なくなった子ども服を学校で回収し、ケニアなどに送っている。実際に届いた国から感謝の動画や手紙が送られてくると実感が沸くし、リサイクルを身近に感じている。

(高校生)

日本では当たり前のことでも外国には当たり前ではない地域もあり、価値観をすり合わせるためにこの目標があると思う。

(高校生)

小中学校でSDGs についての調べ学習の授業などをよく受けた。今後よりよい社会にするためには、SDGs が一番の近道だと思うので、もっとしっかり取り組んでいくべきだと思う。

(高校生)

私が通っている塾の先生が心臓の手術を受けた。人工血管を入れたと聞いているが、私たちが集めているペットボトルキャップが形を変えて、一人でも多くの命が救えるとうれしく思う。

(議員)

先ほどのユニクロ班の話聞いて思い出したが、20年ぐらい前に議員派遣でブラジルのクリチバを訪れたことがある。そのときに貧民街で小さい子どもが裸足で歩いているのを見かけカルチャーショックを受けた。日本では大量生産、大量販売、大量廃棄しているが、そういう地域に支援すれば良いのにと考えた。

(委員長)

先ほどの高校生の思いを聞いてどう思うか聞いてみたい。

(議員)

皆さんのお話を聞いていると、学生生活を送る中でSDGs が身につくようになってきたように感じた。「12 つくる責任つかう責任」とあるが、私たちの世代は、目標に向かって取り組んでいかなければならないという責任を持って活動している。

皆さんは、責任を感じながら取り組んでいるのか、それとも日常的な行動として当たり前と感じているのか、多数決を採ってほしい。

(委員長)

多数決を採りたいと思う。

(責任を感じながら取り組んでいる、当たり前と感じている、双方で挙手あり。ただし、大半が後者。)

(議員)

17のテーマの中から興味や関心のあるテーマについて発表してもらったが、今後新たな目標に取り組むとしたら、どのような思いを持って取り組むのか教えてほしい。

(高校生)

生徒会活動の中で、学校のルールを変えようとすると、それに伴う責任は生徒会にあると感じている。SDGs に関しては、全世界で取り組んでいることなので、責任はすでに全員にかかっていると思う。

今後の新しい目標に関して、健康については、まだ知識が少ないので深く知ってから取り組みたいと思う。

(議員)

私も「5 ジェンダー平等を実現しよう」に共感している。全ての目標が大事だと思うが、1つ選ぶとしたら、「16 平和と公正をすべての人に」である。日本では当たり前の日常生活を送っているが、世界では戦争や紛争が絶えない。皆さんは平和についてどのように考えているか教えてほしい。

(高校生)

戦争は、どちらかが悪いわけではなく、信じていることや正義が違うから争いに発展すると思う。他人に寛容になり、エゴの押し付け合いをなくし、共存の意識をしっかりと持てば良いと思う。

(高校生)

戦争は人間と人間の戦いなので話し合いをすれば良いと思う。意見のぶつかり合いは良いが、押し付け合いは解決につながらない。相手のことを知り、理解し合い、仲良く楽しい世界になればと思う。

(高校生)

まずは平和があってこそだと思う。戦争が起きるのは、人それぞれの考え方の違いでぶつかると思うので、家庭や小中学校での平和への教育を手厚くすれば、未来は大きく変わるのではないかと考えている。

(高校生)

意見は異なるが、私は平和があってこそその教育ではなく、教育をしっかりしないと平和はないと思っている。なぜなら、悪口を言うてはいけないとか、人を殺めてはいけないなど教育をしなければ、一方的な考え方になり、公平公正な考え方ができないと思うからである。

(議員)

いろいろな考えを聞かせてもらって、やはり平和は大事だなと思う。戦時下では、このような懇談もできないのでうれしいしありがたいと感じる。平和を大事にしていきたいと思う。

(委員長)

賢明女子学院高等学校と東洋大学附属姫路高等学校から資料に基づき提案を公表したいとの申し出を受けているので、説明を受けることとする。

【賢明女子学院高等学校が資料に基づき説明】

【東洋大学附属姫路高等学校が資料に基づき説明】

(委員長)

先ほどの高校生からの提案について、議員から意見や感想はあるか。

(議員)

非常に興味深く面白い内容であった。

賢明女子学院高校の皆さんの発表にあったWEUという組織ができたなら面白いだろうと思う一方で、世代が交代するので、つながっていくのはなかなか難しいとも思う。市立3高校が生徒会活動でつながっているように、他の高校と同じテーマと一緒にイベントを開催し、しかも単発ではなく後輩に受け継いで継続していったらどうか。教育委員会や政策局も関わって連携していけばもっとつながっていくと思う。1年では難しいと思うが、ぜひ継続してチャレンジしてほしい。

東洋大学附属姫路高校の皆さんも政治に関心を持って関わっていくという意識が大切だという素晴らしい発表であった。一方で選挙は出る人だけではなく、支えてくれる人たちがいて、そういう人たちの気持ちや声を大切にしないといけない。

政治は身近にあって、自転車に乗っていて危険と感ずることや、街灯がないから暗いと感じること、公園がもっとあれば、子どもたちが遊べるんじゃないかと思うことも政治に関係している。皆さんの中の課題や関心が政治につながっているということたくさんの方に知ってもらいたい。

(議員)

賢明女子学院高校の皆さんの発表を聞いて感銘を受けた。中でもベルマークイベントは、何かテーマを決めなくてもまずは進めていき、軌道修正をしながら輪を広げてほしい。みんなになじみがあり、取り組みやすいと思う。

東洋大学附属姫路高校の皆さんの発表では、高校生が投票率に関してすごく課題に感じて変えなくてはならないと思っていることに驚いた。皆さんが小さいころから選挙について学び、個人が意見を持って投票に行くという取り組みを考えてくれることは非常にうれしく思う。

全体的な感想としては、高校生の皆さんはSDGsについて、学校の取組や生活の中で自然と身について、私たちの世代とは感覚が全く違うと感じた。私は環境問題のイメージが強かったが、皆さんの中には

教育に関心がある人が数人いた。今後、日本の教育の分野に関して、どういう取組をすれば良いか、どうあるべきかなど提案を聞きたい。

(高校生)

私は、英語に苦手意識がある。座って聞いているだけの授業が多く、話すことが少なかったため、もっと実践することが大事だと思う。

(高校生)

教育についてこう取り組みたいという思いはあるが、国がすることだし、自分が政治家にならないと取組めない。自分が取り組めることとしては、自分の理想の教育に近い考え方の政治家に投票することだと思う。

どうあるべきかについては、デジタル化の推進である。ニュージーランドでは、学校でも自宅でもパソコンを使用し、課題などの提出も行う。日本では、この会場にも紙と鉛筆が用意されているし、冬休みの宿題のワークも紙である。SDG sの目標にもあるように環境問題にもつながるし、コンピューターに対するスキルも向上すると思う。

もう1点は、英語の教育に力を入れることである。日本では、ALTの先生が学校に1人ぐらいで交流も週に1回程度である。英語は持続に勉強することが大切だと思うので、グローバル社会に対応できるよう、もっと英語に力を入れた教育をするべきである。

(高校生)

私は、中学に入学するまで英語に触れてこなかったため苦勞している。現在は小学校から英語が取り入れられて良いと思う。

(議員)

3人の意見を聞くとキーワードは英語とデジタル化である。日本の教育の変えていくべき部分について皆さんが課題意識を持っている。

英語に関しては、海外では学生時代の学習で日常会話がある程度できる状態になることが多いが、日本では、受験英語として学ぶので文法は詳しいが、外国人を前に話すのは苦手な人が多い。

デジタル化に関しては、海外では、小学生でもコロナ禍に早い段階からオンライン授業に切り替えていた地域があった。やはり日本は世界の潮流に乗り遅れている部分があると思うので、私たちも含めてしっか

りと変えていきたい。

(議員)

SDG sの話に戻るが、私も平和が大切だと思ったが、もう一步踏み込んで、地球があって平和があるのだと思う。異常気象が進み、皆さんが大人になったときのほうが影響は大きいと感じるので、環境問題が大切である。

ジェンダー平等も貧困対策も大切であるが、環境問題は政治の力だけでは止まらないので、皆さんと一緒に地球を守っていききたいと思う。

(議員)

SDG s 17の目標を達成すべく、国際的に取り組んでいるが、原点は「誰一人取り残さない」こと。1人1人多様性があり、同じ環境、同じ考えで生まれてきていないので、それをしっかりと受け止め、協調性を持って取り組んでいかななくてはいけないと思う。

(議員)

皆さんの思いや考え方がそれぞれ違うように、SDG s 17項目が1つでも欠けると持続可能なまちづくりはできないと思う。皆さんのような考え方が姫路市民全体に広がれば素晴らしい市になると思うので、今後もSDG sをしっかりと前進させてもらいたい。

(委員長)

SDG sについては、若い皆さんのほうが密接に関わりなじまれていて、私たちとは認識が違う部分もあったので、大変勉強になった。認識の違う世代のかけ橋になる役割を担ってほしいと思う。

個別テーマに関しては、意見も出尽くしたと思うので終了したい。

○ 共通テーマ

- ・議員や議会の役割

「議員って何をしている人なんですか？」

(委員長)

次に共通テーマについて意見交換したいと思う。議員に聞きたいことがあれば、質問してほしい。

(高校生)

私は生徒会長をしていて、生徒のためにイベントを開催したり、新しいものをつくったり、つくり替えていたりしているので、議員の活動と似ている部分があると思う。

友人からは、生徒会は雲の上の存在のように思われているような印象を受ける。議員も市民から同じように思われていると考えるが、議会と市民のギャップを埋めるために、どのような取組をしているのか教えてほしい。

(議員)

私は、地元の自治会から推薦されて出馬し、議員として働いているので、常に自治会や地元住民と連携を図っている。そのためギャップを感じていない。

(高校生)

議員の活動内容を若い世代は知らないと思うが、この状況をどう思われるのか。

(議員)

私もこの世界に入るまでは政治は特別なもので、男性だけが集まっているというイメージがあった。ギャップを感じるのは、議会が長らく情報公開をしてくれなかったのも要因だと思う。現在ではユーチューブで議会や委員会の様子を発信している市町村もある。本市はケーブルテレビで本会議中継を行っているが、この発信の仕方が皆さんの世代には届きにくい方法なのかもしれないため、時代に即した情報発信の仕方を検討しなければいけないと思う。

(高校生)

物事を変えようとするときのデメリットの消し方、実現の仕方について、アドバイスがほしい。

(議員)

専業主婦であった私は、女性の声を届けたい、地元の空港建設に反対の声を届けたいという思いから議員になった。当時は兵庫県も姫路市も推進の立場であったが、地元住民と勉強会を重ね、反対の声を挙げ続けることにより、空港建設計画は白紙になった。やはり政治でも学校でも声を挙げ続けることが大事だと思う。

(議員)

何かをやらうとするとデメリットが生じるのはよくあることである。例えば、街灯をつけると夜中でも光が当たり続け、田んぼの稲が育たないと言われる。どちらが大切なのかというときに、きちんと自分の思いに信念を持って伝えていくのが大切で、デメリットが生じる人に対しても対応策を伝えないといけない。それを推進していくためには仲間を増やし、声を大き

くしていくことも大切だと思う。

いろいろな形や方法があるが、自分を信じ、誠意を持って伝えていくことの積み重ねで、良い人間関係が構築され、物事を進めやすくなると思う。

(委員長)

皆さんからいただいたSDGsについての思いは、担当課へしっかりと伝えるとともに、私たちも頑張っ

て取り組んでいきたいと思う。

意見交換終了

15時45分

閉会

15時46分

15時47分